



埼玉県マスコット
「コバトン」

平成26年産

水稻の作柄概況



埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所

1 気象概況

(1) 気温

4月から8月中旬までは平年並から高く推移した。特に7月下旬～8月第1半旬は平年より2～3℃程度とかなり高くなった。8月第6半旬～9月中旬は平年並～低く、9月下旬以降は高温に推移した。

(2) 降水量

4月～5月中旬は少なかった。5月下旬～6月上旬は多く、特に6月上旬は記録的な多雨となった。以降は平年並～少なく推移していたが、10月上中旬は、台風18号、19号の相次ぐ接近により多雨となった。

(3) 日照時間

全般に多かった。6月第2半旬、9月第2半旬など一時的に少ない時期もあったが、月合計で見ると8月が平年並であった他は、各月とも平年より多かった。

(4) 熊谷地方気象台の観測記録

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
平均気温 ℃	本年	14.0	19.8	22.9	26.3	27.0	22.1	17.5
	平年	13.6	18.2	21.7	25.3	26.8	22.8	17.0
	平年差	0.4	1.6	1.2	1.0	0.2	-0.7	0.5
		平年並	かなり高い	高い	高い	平年並	低い	平年並
降水量 mm	本年	41.0	109.0	326.0	128.0	94.5	96.0	282.0
	平年	92.9	111.8	145.4	161.6	192.6	208.3	146.1
	平年比	44%	97%	224%	79%	49%	46%	193%
		少ない	平年並	かなり多い	平年並	少ない	少ない	多い
日照時間 h	本年	245.2	261.4	152.3	188.5	153.1	176.4	169.8
	平年	190.2	182.0	125.5	136.9	166.5	120.8	148.2
	平年比	129%	144%	121%	138%	92%	146%	115%
		かなり多い	かなり多い	多い	多い	平年並	かなり多い	多い

* 熊谷地方気象台「埼玉県の気象・地震概況」より

(5) 特徴的な気象と麦類への影響

特徴的な気象	水稻への影響
・ 5月上中旬の強風	・ 早期栽培の植傷み、初期分けつの抑制
・ 6月第2半旬の寡少	・ 早期早植栽培の分けつ停滞 ・ 普通栽培の苗の軟弱化
・ 7月下旬～8月上旬の高温	・ 早期栽培の玄米品質低下
・ 8月の寡照	・ 早植、普通栽培の登熟停滞
・ 10月の台風18、19号の接近	・ 倒伏の発生

2 水稻生育相調査から見た生育・作柄の特徴

(1) 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

苗は充実度の高い良苗が得られた。

活着は順調であった。

5月上中旬の強風による葉の傷み、6月上旬の寡照により、生育が抑制された期間があったが、全般には高温、多照により生育は旺盛で、穂数は平年より多く確保された。

出穂期は平年並であった。

登熟は8月上旬の高温多照により進んでいたが、8月下旬の曇雨天により遅延傾向となり、成熟期は平年並となった。

収量は穂数を多く確保したことから、㎡当たり籾数が多く、登熟歩合がやや低下したものの、平年比115の多収であった。

外観品質は8月上旬の高温、8月下旬の寡照の影響を受け、乳白粒の発生がやや多く、平年よりやや劣った。

(2) 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

苗は充実度の高い良苗が得られた。

高温により活着は良好であったが、6月上旬の寡照の影響で初期分けつの発生は停滞気味であった。その後の高温で高位高次分けつが多く発生し、最高分けつ期は平年より10日前後遅かった。以降、莖数は平年を上回って推移し、穂数は平年より多く確保された。

出穂期は平年並であった。

登熟は8月下旬の曇雨天の影響によりやや遅延気味で、その後の多照により促進されたものの、平年より3日遅れた。

収量は穂数、1穂籾数が平年を上回り、登熟歩合の低下も見られなかったことから、平年比126の多収であった。

品質は、心配された白未熟粒の発生も少なく、概ね平年並に良好であった。

(3) 普通栽培（6月10日植 彩のかがやき）

苗は寡照により、充実度がやや低く、軟弱気味であった。

活着は良好であった。

分けつは初期より旺盛で、莖数は平年より多く推移していたが、穂数は平年並に確保された。

出穂期は平年並であった。

登熟は8月下旬の曇雨天の影響によりやや遅延気味であったが、その後の多照により促進され、良好であった。成熟期は高温により早まった24、25年の平均に比べると9日遅かった。

収量は穂数、1穂籾数は平年並であったが、登熟歩合が高かったことから、平年比111の多収であった。

外観品質は青未熟粒が多かったが、白未熟粒、その他の未熟粒が少なく、良好であった。

(4) 普通栽培（キヌヒカリ 6月25日植）

苗は充実度の高い良苗が得られた。

活着は良好で、移植後30日以降、高温、多照により生育は旺盛で、莖数は平年を上回って推移し、穂数も平年よりもやや多く確保された。

出穂期は平年より1日早かった。

登熟は8月下旬の曇雨天の影響によりやや遅延気味であったが、その後の多照により促進され、良好であった。

成熟期は平年より5日早まった。

有効穂数は平年並であったが1穂籾数はやや少なく、 m^2 当籾数はやや少なかった。しかし、籾数が少なく、登熟期間良気象であったことから、登熟歩合、千粒重が平年を上回り、収量は平年比123の多収であった。

外観品質は青未熟粒がやや多かったが、白未熟粒が少なく、良好であった。

3 県内全般の生育・作柄の特徴

(1) 早期、早植栽培

移植作業は概ね平年並に行われた。前年同様、「彩のかがやき」については高温対策から移植期を遅らせた地域も多く見られた。

初期生育は、早期栽培の一部で強風による植え傷みのため停滞したところもあった。

また、6月上旬の寡照の影響で一時停滞した時期もあったが、他期間は高温、多照に推移したことから、莖数は平年を上回って推移し、穂数も平年並～多く確保された。

出穂期は平年並～3日程度早まった。

登熟は8月上旬の高温多照により進んでいたが、8月下旬の曇雨天により遅延傾向となり、成熟期は平年並となった。

8月早期栽培の収穫は「あきたこまち」等、極く早いのもので、平年より3～5日程度早く始まった。しかし、以降のものは、8月下旬の曇雨天により、平年並～やや遅れた。

収量は穂数が平年並～やや多く確保されたことから、平年並からやや多収であった。

品質は早期栽培では高温障害と思われる白未熟粒が多く、また、早植栽培では m^2 当たりもみ数が多く、8月中下旬が日照不足傾向であったことから、青未熟米や死米がやや多く、劣った。

(2) 普通期栽培

移植作業は概ね平年並に行われた。

初期生育は好天により順調であった。その後も茎数は平年を上回って推移し、穂数は平年並～やや多く確保された。

出穂期は平年並であった。

登熟は8月下旬の曇雨天の影響によりやや遅延気味であったが、その後の多照により促進され、良好であった。

成熟期は平年並～3日程度早まった。

収量は穂数が平年並～やや多く、登熟も良好であったことからやや多収であった。

品質はm²当たりもみ数がやや多かったが、登熟が良好であったことから、白未熟粒等は少なく、良好であった。

関東農政局発表の10月15日現在の埼玉県の作況指数は東部102、西部102で県全体では102であった。また、10月末日現在の埼玉県の水稻うるち米の検査結果は1等73.9%、2等24.1%、3等1.9%、規格外0.1%であった。

4 具体的データ

(1) 早期栽培 (5月1日植 コシヒカリ)

表1 耕種概要

移植期	苗種類	施肥(kg/10a N)		
		基肥	移植後2週間	出穂前18日
5月1日	稚苗	3	2	2.5

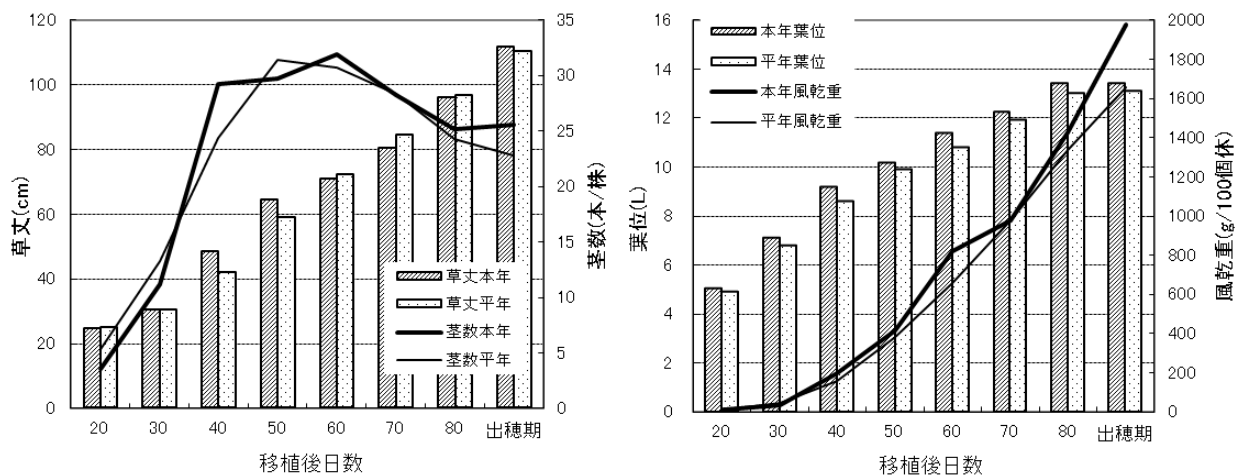


図1 生育経過

注1 平年値はH11～25(H22は除く)の平均。以下同様

表2 出穂、成熟期

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
7/22	7/22	0	7/26	7/26	0	7/30	7/29	1	9/4	9/4	0

表3 成熟期調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)			倒伏程度		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
91.6	92.4	99	20.6	20.1	102	492	436	113	0	0.1	-0.1

注)倒伏程度は0～5の6段階評価

表4 収量および収量構成要素

	精玄米重 (kg/10a)	屑重歩合 (%)	千粒重 (g)	有効穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² 当粒数 (千粒)	登熟歩合 (%)
本年	582	9.6	20.8	471	89.4	41.4	62.5
平年	507	13.9	20.4	410	91.6	37.5	68.6
平年比(差)	115	-4.3	102	115	98	110	-6.1

注) 精玄米重、千粒重は水分15%換算値

表5 品質

	整粒	胴割れ	乳白	基部未熟	腹白	青未熟	その他未熟	その他被害粒等
本年	49.3	0.0	12.6	5.1	1.8	2.1	26.7	2.4
平年(H20～25)	53.3	1.0	5.9	6.7	1.5	3.2	24.4	4.0
平年差	-4.0	-1.0	6.7	-1.6	0.3	-1.1	2.3	-1.6

注1. 外観品質はサタケ穀粒判別器による測定(粒数比)

(2) 早植栽培(5月20日植 彩のかがやき)

表6 耕種概要

移植期	苗種類	施肥(kg/10a N)	
		基肥	出穂前22日
5月20日	稚苗	5	3

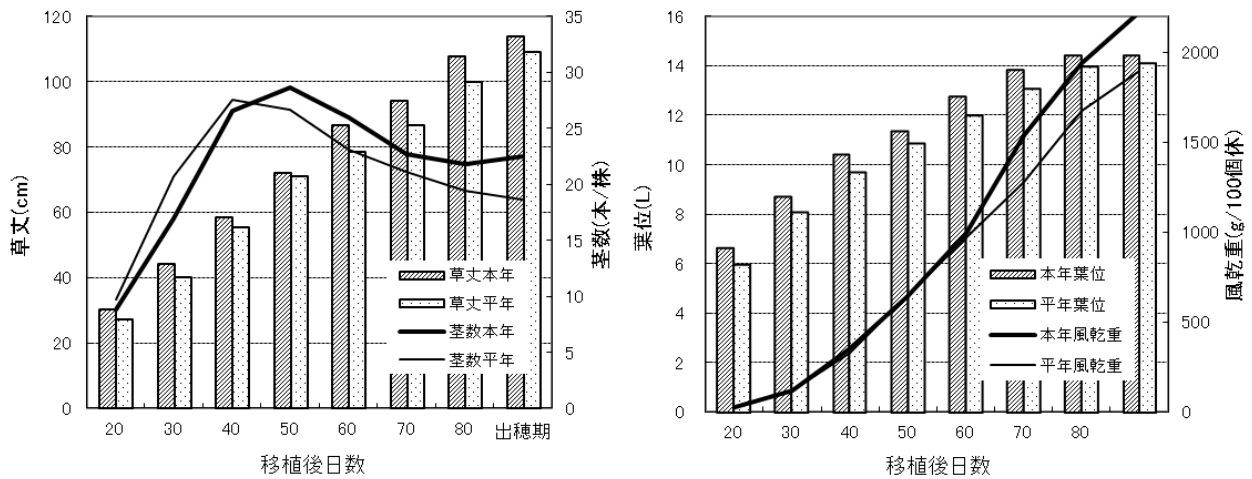


図2 生育経過
注1 平年値はH12～25の平均。以下同様

表7 出穂、成熟期

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/11	8/10	1	8/13	8/13	0	8/16	8/16	0	9/30	9/27	3

注) 平年値は平成12年～24年の平均。以下同様。

表8 成熟期調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)			倒伏程度		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
88.0	79.8	110	22.0	20.8	106	404	375	108	0	0.1	-0.1

注) 倒伏程度は0～5の6段階評価

表9 収量および収量構成要素

	精玄米重 (kg/10a)	屑重歩合 (%)	千粒重 (g)	有効穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² 当粒数 (千粒)	登熟歩合 (%)
本年	661	4.6	22.2	385	83.7	37.6	81.9
平年	524	8.4	21.7	363	82.3	29.8	81.5
平年比(差)	126	-3.8	102	106	102	126	0.4

注) 精玄米重、千粒重は水分15%換算値

表10 品質

	整粒	胴割れ	乳白	基部未熟	腹白	青未熟	その他未熟	その他被害粒等
本年	69.7	0.1	1.9	3.4	0.6	5.5	17.1	2.0
平年1	56.8	0.2	5.0	14.4	3.2	2.9	12.8	4.8
平年2	71.3	0.1	2.4	7.7	0.9	3.1	11.4	3.2
平年1差	12.9	-0.1	-3.1	-11.0	-2.6	2.6	4.3	-2.8
平年2差	-1.6	0.0	-0.5	-4.3	-0.3	2.4	5.7	-1.2

注1. 平年1はH19～H25の平均、平均2は平均1よりH22とH24を除いたもの

注2. 外観品質はササ穀粒判別器による測定(粒数比)

(3) 普通栽培(6月10日植 彩のかがやき)

表11 耕種概要

移植期	苗種類	施肥(kg/10a N)	
		基肥	出穂前25日
6月10日	中苗	5	3

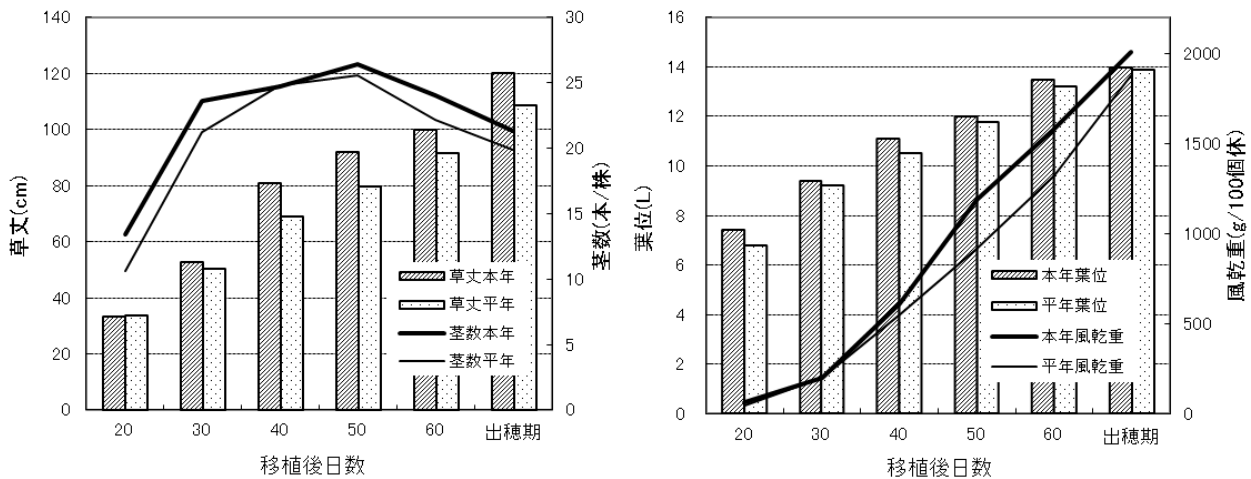


図3 生育経過

注1 平年値はH24～25の平均。以下同様

表12 出穂、成熟期

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/19	8/17	2	8/21	8/21	0	8/23	8/22	1	10/7	9/28	9

注) 平年値は平成24年～25年の平均。以下同様。

表13 成熟期調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)			倒伏程度		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
91.9	85.8	107	19.4	20.6	94	420	423	99	0.0	0.0	0.0

注) 倒伏程度は0～5の6段階評価

表14 収量および収量構成要素

	精玄米重 (kg/10a)	屑重歩合 (%)	千粒重 (g)	有効穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² 当粒数 (千粒)	登熟歩合 (%)
本年	585	6.7	21.9	409	81.2	33.1	81.5
平年	529	9.3	23.1	411	82.4	33.8	75.2
平年比	111	-2.6	95	100	99	98	6.3

注) 精玄米重、千粒重は水分15%換算値

表15 品質

	整粒	胴割れ	乳白	基部未熟	腹白	青未熟	その他未熟	その他被害粒等
本年	75.2	0.0	0.4	0.2	0.2	14.5	9.3	0.3
H24	67.2	0.0	3.6	5.4	0.6	5.8	15.6	2.1
平年差	8.0	0.0	-3.2	-5.2	-0.4	8.7	-6.3	-1.8

注1. 外観品質はサタ穀粒判別器による測定(粒数比)

(4) 普通栽培 (6月25日植 キヌヒカリ)

表16 耕種概要

移植期	苗種類	施肥(kg/10a N)	
		基肥	出穂前20日
6月25日	稚苗	5	3

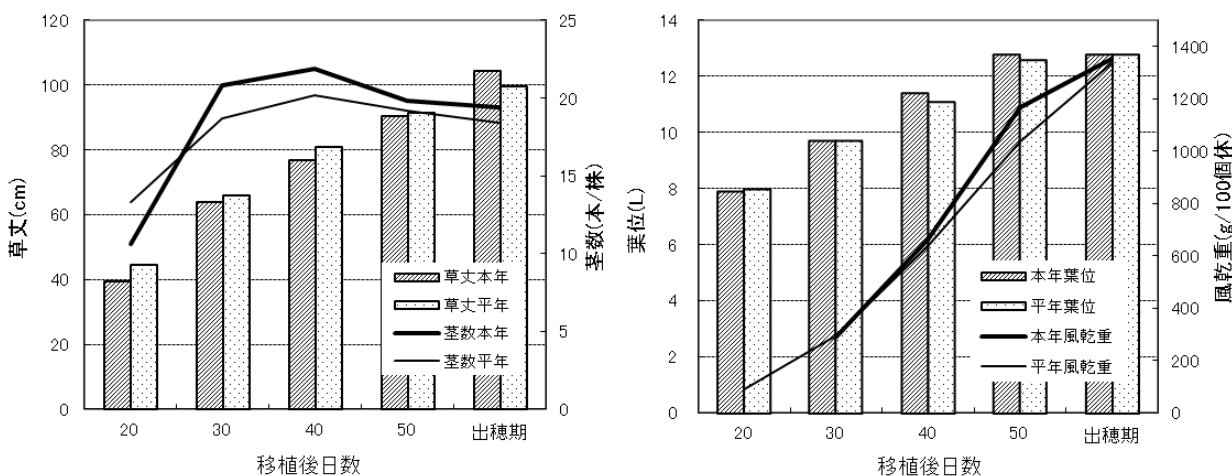


図4 生育経過

注1 平年値はH10～25の平均。以下同様

表17 出穂、成熟期

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/17	8/16	1	8/19	8/20	-1	8/21	8/22	-1	9/29	10/3	-5

表18 成熟期調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)			倒伏程度		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
90.2	84.3	107	17.3	17.9	97	377	360	105	0	0.7	-0.7

注)倒伏程度は0～5の6段階評価

表19 収量および収量構成要素

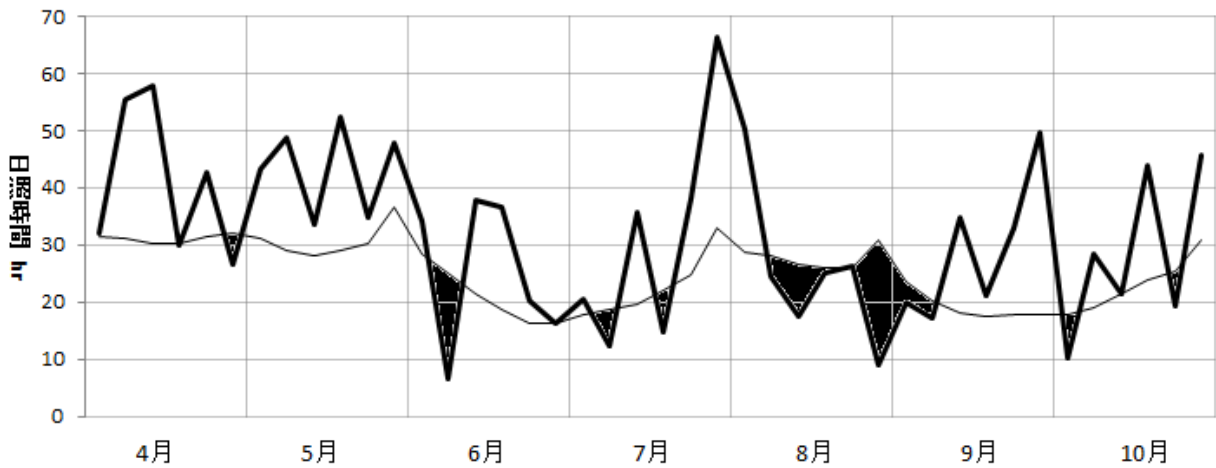
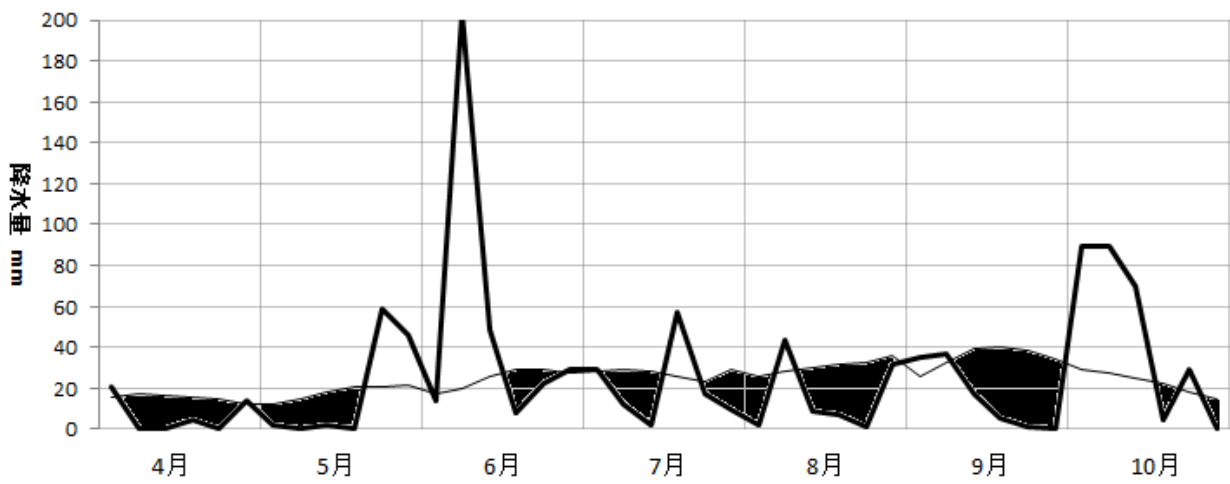
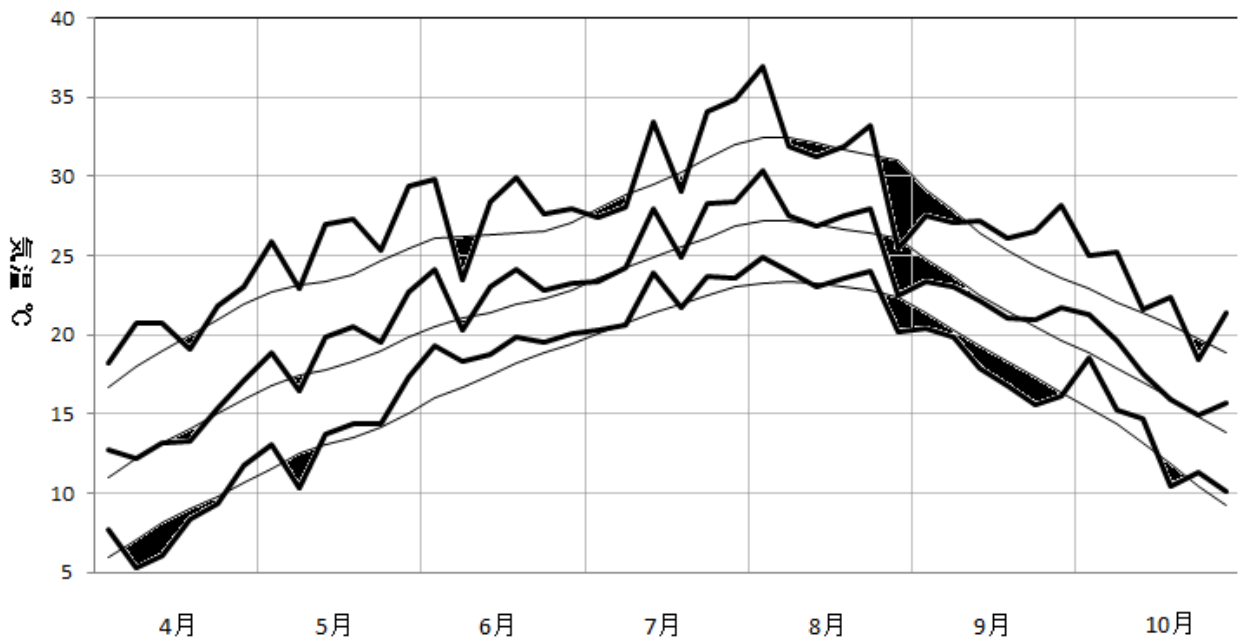
	精玄米重 (kg/10a)	屑重歩合 (%)	千粒重 (g)	有効穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² 当粒数 (千粒)	登熟歩合 (%)
本年	575	5.0	22.7	344	88.9	30.6	85.8
平年	468	12.4	21.3	341	95.5	32.2	69.3
平年比(差)	123	-7.4	107	101	93	95	16.5

注) 精玄米重、千粒重は水分15%換算値

表20 品質

	整粒	胴割れ	乳白	基部未熟	腹白	青未熟	その他未熟	その他被害粒等
本年	70.1	0.2	0.6	0.3	0.3	12.2	15.9	0.7
平年(H20～25)	62.1	0.6	4.1	3.2	1.8	6.7	18.0	3.3
平年差	8.0	-0.4	-3.5	-2.9	-1.5	5.5	-2.1	-2.6

注1. 外観品質はサタ穀粒判別器による測定(粒数比)



平成 26 年夏作期間気象図

(熊谷气象台日別測定値から作成)

